

#### 4 グループ

私たちは、派遣式に臨むにあたり、校訓「人になれ 奉仕せよ」とは何かを看護の視点から考えました。松田先生の講演で、イエスの「善いサマリア人」の話を聴きました。あらすじを紹介します。

「ある人が、追いはぎに襲われて、倒れていた。その側を、祭司とレビ人の2人は素通りし、3人目に通ったサマリア人が憐れに思い、傷の手当てをし、宿屋に連れて行って、介抱した。翌日、サマリア人は「この人を介抱して下さい。費用がもつとかかったら、帰りがけに払います。」と言い、お金を宿屋の主人に渡した。」

グループワークでは、サマリア人のとった態度について、「差別なく平等に接したサマリア人には、隣人愛があり、奉仕するとはこういうことだ」という一方で、費用を負担するのは「偽善」、「やりすぎではないか」、「ありがた迷惑ではないか」と考える人もいました。また、「素通りした2人は、結果的に見捨てる形になったが、やむを得ない事情があったのではないか」、「そのように考えると、差別で見捨てたとは限らない」、と考える人もいました。私たちは、「善いサマリア人」の話から、一方の視点から物事を決め付けるのではなく、多面的に考えることを学びました。

そして、この話を受けて、「人になれ」とは、どういうことかを話し合いました。人は、一人ひとり、感情を持ち、他者と接しながら生きています。私たちは、他者との関わりの中で、感情を豊かにし、成長していくものであり、様々な感情を持っているからこそ、他者のことを考えることができます。しかし、他者のことを考えるためには、まず自分のことを知る必要があります。

今の私たちは、自分の長所について、自信をもって表現することができません。それは、自分の長所がわからなかったり、わかっているけど、「自信過剰」と周りの人に思われることを、恐れているからです。私たちは、他者から評価されないと自分自身の強みを表現することができません。他者との関わりの中で、自分を知ることができ、それが自分の強みとなり、自信へとつながっていきます。

3年生の春学期は、グループワークや演習を行う授業が格段に多く、対人関係を実践しながら学ぶことが増えます。これは、自分自身を評価し、見直すチャンスなのです。

グループワークでは、自分の考えをメンバー間で共有することで、新たな視点に気づき、互いに理解を深めることができます。また、学生同士で問題を解決し、取り組むことで、協調性や寛容性、柔軟性などが身につけていくともいえます。

演習では、単に看護技術を習得するだけでなく、互いに患者・看護師役をロールプレイすることで、ケアを受ける患者さんの気持ちに近づこうと、相手の立場から物事を見ようとする姿勢を、養います。

看護の現場では、人の気持ちを理解できる人、知識がある人、一緒になって自分のことを考えてくれる人、が求められていると話し合いました。つまり、信頼をおける人が求められているのはいかに気づきました。

奉仕について考えたとき、実習で見た看護場面を思い出しました。看護師は、意識のない患者さんに対し、「おはようございます。」と挨拶をし、痰の吸引の後には「お疲れ様でした。」と肩の辺り

#### 4 グループ

に、優しく触れながら言葉を掛けていました。患者さんは、意識がなく、反応もないはずなのに、看護師は一つ一つ声をかけながら、ケアを行っていました。それは、看護師が、患者さんを感情のある「人」として尊重しているからこそ、出来た行動なのではないでしょうか。つまり「奉仕」とは、業務的に看護を行うのではなく、思いやりをもって行うこと、患者さんを人として尊重し、感情をもって接することです。そして、コミュニケーションを通して、患者さんと信頼関係を築き、患者さんが本当に必要としているニーズを知ることで、個別性のある援助を行うことができます。また、患者さんと接する上で、患者さんの立場に立つこと、さらに患者さんの家族の立場に立って考えることが大切なのです。

私たちは、これから始まる臨地実習に向け、『人になれ 奉仕せよ』の校訓を意識しながら、日常生活を過ごしていきたいです。『人になれ』も、『奉仕せよ』も、日々の生活の中の積み重ねによって確立されます。挨拶や礼儀、言葉遣い、服装、清潔感など、日頃からの振る舞いは自然と実習の場でも出るものです。

これから私たちは、実習で様々な患者さんを受け持たせていただくこととなります。看護学生として、どんな場面でも、努力を惜しまず、学習をしていくことが、患者さんと信頼関係を築くことができ、尊重した看護につながるのではないかと考えます。そして、患者さんと信頼関係を築き、患者さんに寄り添ったケアができるよう、忙しさを理由に業務的な声掛けをするのではなく、相手を尊重した声掛けや態度で、今後患者さんに接していきたいと思います。

現在、私たちは、日々課題に追われ、周りにおいて行かれてしまうのではないかという不安の中にいます。それでも頑張っているのは、「皆と一緒に実習に行きたい」、「看護師になりたい」、「支えてくれている人たちのため」、それぞれの想いがあるからです。

そのためには、看護学生として、日々が学びの連続であるということをしっかり胸に刻み、有意義に過ごしていきたいです。

これで私たちの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。